

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.9/5(月) ~ R4.9/11(日)

令和4年第36週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
陽性者数	① 合計 <sup>※2</sup>	7007人	7881人	-	-
	② 対人口10万人	455.0人	511.8人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.89	0.75	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		98%	97%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 <sup>※3</sup> （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		50.9%	52.9%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いております。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ <sup>※1</sup> 指標	ステージⅣ <sup>※1</sup> 指標
<報告日>		9/11現在	9/4現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	179人	232人	-	-
	確保病床数	485床	485床	-	-
	病床使用率	36.9%	47.8%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	5人	7人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	7.2%	10.1%	20%以上	50%以上

<療養者数及び入院率について>

国の通知に基づき、神奈川県でも令和4年8月から、医療機関における重点観察対象者以外の届出項目が簡略化されたことに伴い、「療養者数」及び「入院率」の集計については不確実なものとなったため、令和4年8月23日公表分以降掲載しないこととします。

## <変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	直近1週間	前週	累計
	R4.9/5 ~ R4.9/11	R4.8/29 ~ R4.9/4	R3.3/11 ~ R4.9/11
$\alpha$ 株（アルファ）	0件	0件	203件
$\beta$ 株（ベータ）	0件	0件	0件
$\gamma$ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
$\delta$ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	1件	0件	469件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	1件	0件	5件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	30件	7件	265件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

## <評価>

### 第36週（令和4年9月5日～9月11日）

- 令和4年に入ってから本市における新規陽性者数は第6週13,960人をピークとして緩やかに減少し、第23週は1,411人となりました（第6波）。その後第24週1,413人から増加が続き、第30週は22,063人と急速かつ大幅な増加となり第7波と称されるようになりました。第30週をピークとして第31週18,396人、その後毎週14,126人→13,041人→10,490人→7,881人、そして第36週（今週）は7,007人と6週連続して減少しています。前週比は第28週2.10から減少し始め、第31週は0.83と4週間連続して減少し8週ぶりに1.0を下回り、その後毎週0.77→0.92→0.80→0.75と推移し、第36週（今週）0.89と6週連続して1.0を下回っています。
- 入院患者数は第7週335人をピークに同じく緩やかに減少、第24週は24人となりましたが、第25週41人から第31週368人と7週間連続して大幅な増加が続きました。しかし、第31週をピークとして第32週353人、その後335人→330人→232人、そして第36週（今週）179人と5週連続して減少しています。
- 入院病床使用率は、第7週70.2%をピークとして減少し、第24週は4.9%となりました。第25週8.5%から第31週75.9%まで7週間連続して大幅な増加が続きましたが、第32週72.8%から、その後毎週69.1%→68.0%→47.8%、そして第36週（今週）36.9%と5週連続して減少となっています。
- 入院中の重症患者数は第8週30人をピークに減少し、第21週から第25週まで5週連続して0人でしたが、第26週2人から毎週のように増加し、第32週は14人となりました。しかし、第33週12人、第34週9人、第35週7人、そして第36週（今週）は5人と4週連続して減少しています。
- 重症病床使用率は、第8週の43.5%をピークに次第に減少し、第21週から第25週まで5週連続して0.0%となっていました。第26週2.9%から毎週のように増加し、第32週は20.3%と増加しました。しかし、第33週17.4%、第34週13.0%、第35週10.1%、そして第36週（今週）7.2%と4週連続して減少しています。

### <感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、昨年末の微増傾向に続いて令和4年第1週522人から、毎週2,569人→6,882人→12,534人→13,617人と急増し、第6波と称されるようになりました。第6週13,960人をピークとして、第7週12,983人から第12週6,282人と6週連続して減少し、その後若干の増減を繰り返しながら第23週1,411人まで減少が続きました。第24週に入ると1,413人となり、その後は毎週1,677人→2,744人→6,124人→12,840人と急増し第7波と称されるようになり、第29週は18,754人とこれまでのピークの第6週13,960人を越え、第30週は22,063人と大幅に増加しました。しかし、第30週をピークに第31週18,396人から、その後毎週14,126人→13,041人→10,490人→7,881人、そして第36週（今週）7,007人と6週連続して減少しています。

なお、本市では、第36週はこれまで通りの全数報告数となっています。

- ② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も、昨年末の微増傾向に続いて、令和4年第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人→884.2人と急増し、第6週906.5人をピークとして、第23週91.6人まで減少が続きました。第24週に入ると91.8人となり、その後毎週108.9人→178.2人→397.7人→833.8人→1,217.8人、そして第30週1432.7人と大幅に増加しました。しかし、第30週をピークとして第31週1,194.5人から、その後毎週917.3人→846.8人→681.2人→511.8人、そして第36週（今週）455.0人と6週連続して減少しています。

ステージ分類は、第1週から第36週（今週）まで36週連続してステージⅣとなっています。

- ③ 前週との増加比は、昨年末には微増しながらも1.0以下でしたが、令和4年第1週18.00、第2週4.92と急増しました。第3週2.68から第6週1.03と減少が続き、第7週に0.93と1.0を下回り、その後第12週まで6週連続して1.0を下回っていましたが、第13週1.06、第14週1.05と2

週連続して1.0を上回りました。その後第15週0.86から、第18週0.78まで4週連続して1.0を下回り、第19週は1.24と増加したものの第20週0.86から第23週0.78まで4週連続して1.0を下回っていました。しかし、第24週1.00からその後毎週1.19→1.64→2.23と増加した後、第28週2.10から、第29週1.46、第30週1.18と減少し、第31週は0.83とさらに減少し8週ぶりに1.0を下回り、第32週は0.77と5週連続して減少しました。第33週は0.92と若干増加がみられましたが、第34週は0.80、第35週0.75と再び減少し、第36週（今週）は0.89と若干増加がみられていますが、6週連続して1.0を下回っています。

- ④ 感染経路不明者の割合は、昨年第52週の72%から、令和4年第1週68%→79%→85%→88%と上昇し、第5週から第36週（今週）まで90%以上の高値が31週連続しています。ステージ分類では、36週連続してステージⅣのままとなっています。
- ⑤ 検査陽性率は、令和4年第1週9.4%から、第5週51.1%まで5週連続して増加し、その後約45～55%を上下し、第15週40.9%から第18週40.4%と、4週連続しておおむね40%前後となっていました。第19週31.5%から第23週21.2%まで若干の上下をしながら減少しましたが、第24週21.5%からその後毎週22.3%→30.7%→42.4%→50.8%→60.6%と増加し、第30週からおおむね60%前後で推移していました。第35週は52.9%、第36週（今週）は50.9%とやや減少傾向となっています。
- ステージ分類では、35週連続してステージⅣのままとなっています。

#### <医療提供体制等の負荷：報告日9月11日現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、昨年第49週は2人と少数になりましたが、令和4年第1週23人、第2週75人からその後毎週増加、第7週335人をピークとして、第8週322人から8週連続して減少し、第15週は76人と2桁台となりました。その後若干の上下はあるものの、第24週24人まで減少した後、第25週41人からその後毎週48人→103人→160人→249人→302人、そして第31週は368人とさらに増加しましたが、第31週をピークとして第32週353人から、その後毎週335人→330人→232人、そして第36週（今週）は179人と、5週連続して減少となっています。

確保病床数は現在合計485床となっています。入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第15週15.8%まで8週連続して減少。その後若干の上下がありますが、第24週4.9%まで減少しました。しかし第25週8.5%からその後毎週9.9%→21.2%→33.0%→51.3%→62.3%→75.9%と増加が続きましたが、第31週75.9%をピークとしてその後第32週72.8%→69.1%→68.0%→47.8%、そして第36週は36.9%と5週連続して減少となっています。

確保病床使用率のステージ分類は、第5週～第9週と5週連続してステージⅣ、第10週～第14週がステージⅢ、第15週からステージⅢ解消となり、第26週まで12週連続してステージⅢ解消となっていました。第27週・第28週はステージⅢ（20%以上）となり、第29週より第34週までは6週連続してステージⅣ（50%以上）となっていました。第35週・第36週（今週）はステージⅢに戻っています。

- ⑦ 重症入院患者数は、昨年第47週～第52週は0～1人を前後し、令和4年に入って第1週も0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加しました。第9週25人から第14週2人と6週連続して減少し、若干の増減はありましたが第20週2人と8週連続して一桁台となった後に、第21週から第25週、重症入院患者0人が5週連続しました。しかし、第26週2人からその後毎週3人→4人→6人→5人→11人、そして第32週14人と増加が続きましたが、第32週の14人をピークとして第33週は12人、第34週9人、第35週7人、そして第36週（今週）5人と4週連続して減少しています。

重症者の確保病床は現在69床となっています。重症病床使用率は、昨年第47週から本年第2週の間は0%～1.4%を繰り返していました。第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%をピークに、第9週2.9%まで減少が続き、その後若干の上下がありますが、第20週2.9%、そして第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。

しかし第 26 週 2.9%からその後毎週 4.3%→5.8%→8.7%と増加し、第 30 週は 7.2%と一時減少しましたが、第 31 週は 15.9%、第 32 週 20.3%とほぼ 7 週連続して増加し、第 32 週の 20.3%をピークとして第 33 週 17.4%、第 34 週 13.0%、第 35 週 10.1%、そして第 36 週（今週）7.2%と 4 週連続して減少しました。

重症者の確保病床使用率のステージ分類は、第 6 週～第 11 週は 6 週連続してステージⅢとなっていました。第 12 週にステージⅢ解消となつてから第 31 週まで 20 週連続してステージⅢ解消が続いていました。第 32 週はステージⅢとなりましたが、第 33 週から第 36 週（今週）は 4 週連続してステージⅢ解消となっています。

### <変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 36 週（今週）は、オミクロン株 32 件中、BA.2 が 1 件、BA.4 が 1 件、BA.5 が 30 件となっています。

本市における新規陽性者数は第 6 週、入院患者数としては第 7 週、重症患者数は第 8 週をそれぞれピークとして、多少の増減を繰り返しながら全体として減少傾向が続いた後、新規陽性者数は第 24 週あたりから増加に転じ、第 30 週 22,063 人と大幅に増加しました。それに伴って入院患者数も第 26 週 48 人から第 31 週 368 人と増加、第 25 週まで 5 週連続して 0 人であった重症入院患者数も第 26 週 2 人から第 32 週 14 人と増加していました。しかし、本市における新規陽性者数は第 30 週 22,063 人をピークとして減少に転じ、第 36 週（今週）7,007 人と 6 週連続して減少しています。入院患者数も第 31 週 368 人をピークとして減少に転じ、第 36 週（今週）179 人と減少が 5 週連続しています。重症患者数も第 32 週 14 人をピークとして減少に転じ、第 36 週（今週）は 5 人と 4 週連続して減少しています。

前週との増加比は、第 24 週 1.00 からその後毎週 1.19→1.64→2.23 と 1.0 を上回った後、第 28 週 2.10、第 29 週 1.46、第 30 週 1.18、第 31 週 0.83 と 4 週間連続して減少し 8 週ぶりに 1.0 を下回り、その後毎週 0.77→0.92→0.80→0.75 と推移し、第 36 週（今週）0.89 と 6 週連続して 1.0 を下回っています。

新規陽性者数の減少に伴って入院患者数、重症患者数も減少が続いていますが、1 日の発生数としてはまだ多い状態が続いています。通常の生活が戻りつつあることはとても良いことですが、今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人が感染予防におも気を付けていただくことは大変重要で、感染予防に関する基本的な注意はぜひ続けて頂きたいとお願いたします。

基本的な注意点というのは、繰り返しになりますが、三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどで、新型コロナウイルスに限らず感染症にならない、感染症を広げないための大切な注意点です。

9 月も半ばとなり朝夕の暑さは和らいできていますが、もし発熱等の症状がみられた場合には無理せず体を休め、受診あるいは自宅での抗原検査利用などしていただければと思います。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ <https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html> などにも案内が掲載されています。

ワクチンの接種対象となっている方におかれましては、0 回であれば 2 回接種を、2 回接種であれば 3 回接種を、4 回接種対象の方は 4 回目の接種を早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくことを強くお勧めします。様々な事情でワクチン接種ができない方におかれましては、感染予防に関する注意は強めにして下さいますよう、よろしくお願いたします。